

〔大島特産園芸作物における生産技術振興対策〕

大島のトルコギキョウ秋冬出荷栽培における非冷蔵苗の利用

鶴沢玲子・南 晴文・両角正博・本橋浩紀
(島しょ農林水産総合センター大島事業所)

【要 約】夏播き秋冬出荷栽培で、トルコギキョウ品種「ネイルスワロー、メロウピンク、サマースノー」は、ロゼット株率が低く安定しており切り花品質も高く、非冷蔵苗を利用した栽培で実用性が高い。

【目 的】

大島のトルコギキョウ栽培は主に5月下旬～6月上旬播種秋冬出荷であるので、育苗期の高温ロゼット化を防ぐため1ヵ月間の冷蔵処理が必要となる。コスト・労力削減のため冷蔵処理の省略が求められている。本試験では、非冷蔵苗を用いた栽培でロゼット性、切り花品質を検証し、実用性が高い品種を明らかにする。

【方 法】

- 1) 供試品種：「一番星」など9品種(表1)を供試した。
- 2) 播 種：冷蔵苗区は2007年5月28日、非冷蔵苗区は6月18日、288穴セルトレイ(用土：ガッチリくん花用)に播種した(非冷蔵苗育苗期間中の平均気温25.2℃)。
- 3) 冷蔵処理：冷蔵苗区は7月3日～8月2日、10℃24時間蛍光灯照明下で冷蔵した。
- 4) 定 植：8月6日に床幅90cm、通路70cm、12×12cmの7条植えでセンター内ガラス室に定植した。
- 5) 区 制：非冷蔵苗区は1区77株、冷蔵苗区は1区63株の2反復とした。
- 6) 調 査：収穫調査は2007年11月末まで行った。10月11日に生産者を対象に検討会を行い、非冷蔵苗の品質について立毛の評価を行った。

【成果の概要】

- 1) ロゼット株率は、「あすかの雫」で18.2%、その他の品種は10%以下であった(表1)。
- 2) 切り花長は非冷蔵苗区が51～60cm、冷蔵苗区が55～63cmで、ほとんどの品種で冷蔵苗の方が長かったが、差は5cm以下と小さい品種が多かった(表2)。切り花重は非冷蔵苗区が17～26g、冷蔵苗区が14～21gで、ほとんどの品種で非冷蔵苗区の方が重かった。有効蕾数は非冷蔵苗区が2.9～4.8個、冷蔵苗区が2.6～5.0個で、差は少なかった。
- 3) 採花が最も多い週の採花率は非冷蔵苗区で23～55%、冷蔵苗区で27～78%であり、冷蔵苗区の方が開花時期が揃った(図1)。
- 4) 非冷蔵苗の品質評価は、草丈では冷蔵苗区の方が高かったが、ボリュームでは冷蔵苗区と差が少なかった(表3)。揃いは冷蔵苗の方が良いという評価であった。
- 5) まとめ：供試した9品種はロゼット株率が低く、非冷蔵苗を利用した栽培が可能とみられる。立毛の評価では冷蔵苗区の方が揃いが良いと判断されたが、これは開花時期が集中するためと推定され、切り花品質の差は小さかった。このうち「ネイルスワロー、メロウピンク、サマースノー」は非冷蔵苗区と冷蔵苗区の草丈の差が小さく、ロゼット株率が2005年度栽培(平成18年度成果情報)に於いても安定しており、実用性が高い。